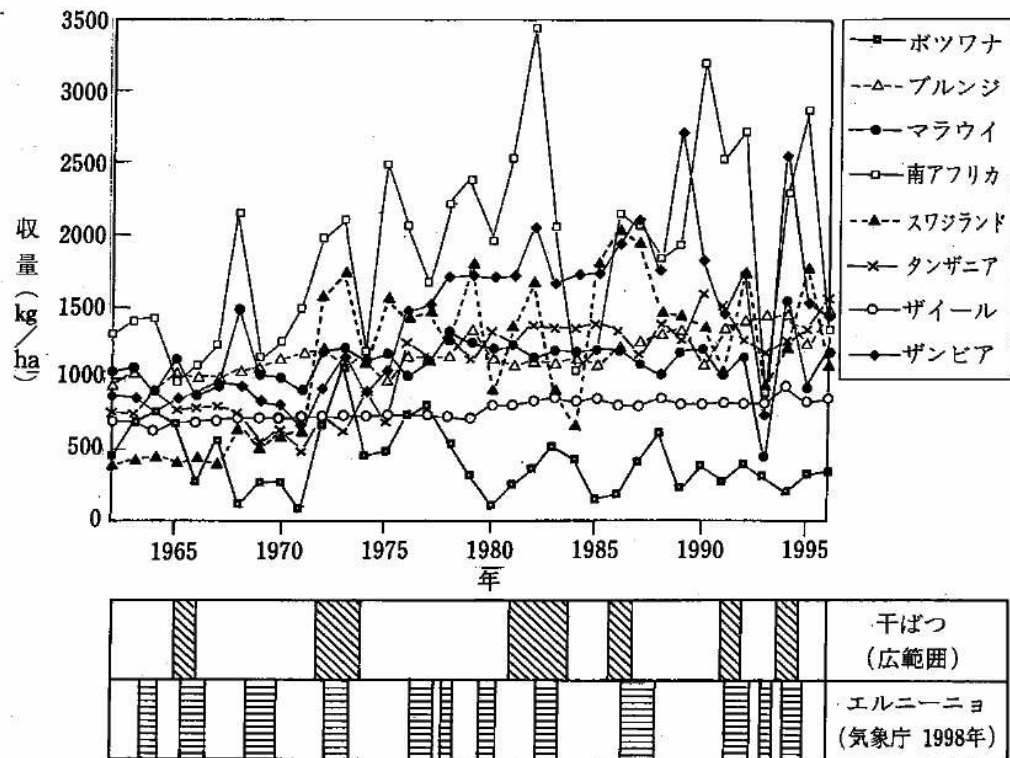


異常気象の原因となる自然変動

- エルニーニョ/ラニーニャ現象
- インド洋ダイポール現象
- アジアモンスーン変動
- ブロッキング現象
- テレコネクション
 - (a) 南方振動(SOI: Southern Oscillation Index)
 - (b) 太平洋北米パターン
(PNA: Pacific North American Pattern)
 - (c) 北大西洋振動 (NAO: North Atlantic Oscillation)
 - (d) 北極振動(AO: Arctic Oscillation)
 - (e) 赤道季節内振動

エルニーニョ現象の変化

- ・エルニーニョ現象は、1970年代中期以降、それ以前の100年に比べて、発現頻度、持続期間、強度が増大している。
- ・20世紀(1900-1995年)において、厳しい干ばつ、あるいは著しい多雨が発生した地域は、若干増加した。多くの地域で、これらの変化は、ENSOがエルニーニョ現象側により多く偏るような10年及び数十年規模の気候の変動に支配されている。
- ・アジア及びアフリカの一部のように、干ばつの発現頻度と厳しさが、ここ数十年で増加したことが観測されているところがある。



アフリカ各国のトウモロコシ収穫量と干ばつ、エルニーニョとの関係 (IPCC, 1998等より作成)

エルニーニョの発生状況

エルニーニョ監視海域における海面水温の基準値との差(°C)。折線:月平均値、滑らかな太線:5か月移動平均値。エルニーニョ現象の発生期間は赤、ラニーニャ現象の発生期間は青。

